

公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開	<input checked="" type="checkbox"/> 部分公開
	<input type="checkbox"/> 非公開	
※記号の説明		
「○」・・・委員の発言		
「◎」・・・事務局の回答		

第2回 江之島ビーチコート整備・運営事業におけるPFI等審査委員会

- 1 開催日時 令和6年2月13日 午後3時から午後4時30分まで
- 2 開催場所 浜松市役所8階 第3委員会室
- 3 出席状況 出席委員 荒木 秀（株式会社アビータス 代表取締役）
石黒 えみ（亜細亜大学経営学部ホスピタリティ・マネジメント学科 准教授）
中野 民雄（静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科 教授）
石切山 真孝（浜松市財務部長）
杉田 実良（浜松市市民部スポーツ振興担当部長）
- 事務局 スポーツ振興課
松野課長、加藤課長補佐、鈴木グループ長、寺田主任、袴田主任
アセットマネジメント推進課
高須PPP推進グループ長、山端主任
- 4 傍聴者 非公開のため、0人
- 5 議題、内容及び結果
- (1) 設置要綱の改正
本市の組織改正により要綱改正。嶋野氏に代わり杉田氏が就任。
- (2) 審議の内容
- 議題1 第1回審査委員会後の経過
- 議題2 個別対話を踏まえた今後の方針
- 個別対話に参加した企業について、本事業への関心・応募意向はどうか。
- ◎本事業への関心・応募意向はあると感じた。また、以前より、本事業の検討状況を市へ確認に来ていた。
- 提案書の提出時期を見直す可能性はあるのか。
- ◎本施設の全面開業の時期を変更することは考えていない。施工計画などの再検討を踏まえた上で、提案書の提出時期を改めて考えたい。施設を段階的に拡張してはどうかという意見も個別対話の中でいただいた。日常利用や国内大会開催に必要な

なものは確保しつつ、その後拡張していくという考え方もある。また、国際大会・世界大会開催時には、仮設で対応するという考え方もある。

- 国際大会・世界大会の開催が可能な施設を整備するのだが、仮にそれを変更するとなった場合、入札公告までに検討することが可能なのか。
- ◎基本設計を変更するとなると、かなりの費用と時間がかかる。基本設計をベースにしつつ、市としての基準を示して提案書の作成期間を確保することはありうる。
- サブコートの屋根・屋内化は、事業費にも関係する。事業者には、屋根・屋内化の検討をお願いするベースなのか。それとも、屋根・屋内化を方向性として考えてほしいのか。
- ◎基本設計の策定時にも、屋根・屋内化を検討していた。今回、屋根・屋内化により観客席数とトイレの設置数などを見直すことで、当初の事業費からどの程度変動するのかまでは検証していない。検証のない中で、要求水準書をどのように示していくのかを考えている。
- 市の優先順位を確認したい。施設を整備するというよりも、運営していくことに重点を置いているのか。
- ◎整備することが目的ではなく、その先の運営が重要と考えている。個別対話の中では、過度な施設ではないかという意見も出ている。
- 今の時点から、見直し・変更ができる内容はどこまでとなるのか。
- ◎ビーチコートの大きさ、管理棟や諸室は必要なものとなる。観客席数などは運営の仕方によるものと考えている。
- 大会誘致には、熱意のあるキーパーソンが必要である。市が主導的に行っていくのであれば、国際大会・世界大会基準の施設を整備することもありうる。それが難しいのであれば、仮設で対応できる設えにしておく方がよいのではないか。また、立地的に、集客には補助などの施策と組み合わせて考えていかなければ難しい。
- ◎大会誘致を事業者に委ねるのは難しく、競技団体との連携が必要と考えている。また、国際大会・世界大会の誘致となると、国や県も交えて協議を進めていくことになる。それに伴う市の負担も考えていかなければならない。
- 競技団体は本事業にどの程度関わっているのか。
- ◎地元の競技団体はスタート段階から関わっている。ビーチ・マリンスポーツ推進協議会を設立し、その中で情報共有・意見交換を行っている。また、そこを通じて中央競技団体とも協議を行っている。地元の競技団体には、実施方針・要求水準書(案)を公表する前に、それら内容を説明している。
- ビーチコートの砂の色について、入札公告時までに確定していくのか。
- ◎入札公告までに確定するか、もしくは事業者から砂の色を提案していただく方法もあるのではと考えている。
- 国際大会・世界大会基準の施設が整備されれば、様々な大会が誘致できるというの

は分かる。ただ、金額やオーバースペックになることを考えれば、社会情勢や資材高騰などを踏まえた上で、現時点で最適な施設レベルを市で決めていかなければならない。

- 個別対話の中で、ビーチスポーツ以外の部分で、このように規定してもらえると、運営として魅力的になるとか、手を挙げやすいといった意見は出てきたか。
- ◎提案の自由度という意見ではあったが、その自由度が飲食などに対するものと、聖地を目指してのものとは分かれており、運営の考え方で異なっていた。それを踏まえて、市の裁量はなるべく小さくしていきたい。
- これなら運営できるという提案をいかに呼び込むか。それを広くすればするほど評価は難しくなるが、そこは頑張りつつ。よく言えば、クリエイティブのある提案を多く受け取れるのかになる。
- 複数の応募者から提案が出てくるように、要求水準書の中でどこまでを事業者の提案を委ねるのか。そこが大事な点だと考えている。
- ◎事業者が手を挙げやすいよう、入口は広げていきたい。その中で、市として何を評価したいのかを明確にしていく。

(3) 審議の結果

議題1 第1回審査委員会後の経過について、確認した。

議題2 個別対話を踏まえた今後の方針について、確認した。

(4) その他（落札者決定基準（案）について）

- 落札者決定基準（案）は見直しをしていくとのことだが、まずは現時点の案をもとに検討したらよいか。
- ◎そのようにお願いしたい。見直し後の落札者決定基準（案）は改めてお送りする。
- 価格点について、市の支払う対価が少ないほど点数が高くなるとの理解でよいか。
- ◎そのとおりである。
- 要求水準書を超える提案に対して加点するというでよいか。
- ◎そのとおりである。

6 会議資料の名称

資料0 次第

資料1 江之島ビーチコート整備・運営事業における浜松市 PFI 等審査委員会設置要綱（案）

資料2 委員名簿

資料3 実施方針及び要求水準書（案）に関する質問及び意見への回答

資料4 個別対話

資料5 落札者決定基準（案）

7 発言内容記録方法 文字 / 録画 / **録音**

8 会議録署名人 中野 民雄

杉田 実良